

付着生物ラーバ情報

マボヤの付着はこれから進む見込み

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ、キヌマトイガイ、オベリア類（クラゲの仲間、通称クサ）

ラーバ、クラゲは見られていません。

(2) アミクサ（海藻、通称クサ）

小枝は久栗坂沖で3.9個/m³、川内沖で0.8個/m³見られました。

(3) マボヤ

ラーバと卵は奥内沖でそれぞれ1.7個体/m³、0.8個/m³、久栗坂沖でそれぞれ1.7個体/m³、2.2個/m³、川内沖でそれぞれ1.6個体/m³、3.1個/m³見られました。

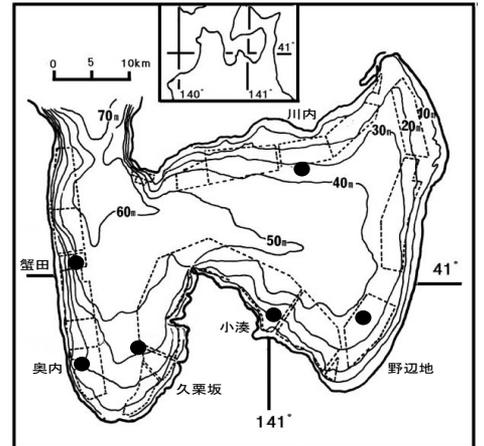


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

ユウレイボヤは、水温が20℃以下に低下すると産卵し、**例年10～12月がラーバの出現ピーク**になっています。現在、陸奥湾の中層水温が12～15℃台まで低下したにもかかわらず、ラーバが見られない（図2）ことから、**分散済みの籠への今秋における付着は少ない**と考えられます。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われます。

マボヤのラーバと卵が増加してきた（図3）ので、今後**付着が進む**ものと考えられます。

稚貝のパールネット内に今秋生まれの小さなウミセミが多数見られます。**ウミセミは8℃以上の水温で付着生物を活発に食べる**ので、冬季に水温が高ければ来春の付着生物量は少ない可能性があります。

3 ユウレイボヤの付着予測

西湾（久栗坂）と東湾（小湊、野辺地、川内）における10月～翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数、12月～翌年3月までの青森ブイ（西湾）または東湾ブイ（東湾）の水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係を調べたところ、**平均水温が8℃以上もしくはラーバ累積出現数が5個体/m³以下であれば付着量が少ない**ことが分かりました（図4）。ちなみに青森ブイの平均水温の平年値は8.1℃、東湾ブイの平年値は5.6℃です。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ガラボヤ	マボヤ		キヌマトイガイ	ムササギガイ	オベリア類	アミクサ
				ラーバ	卵			クラゲ	小枝
蟹田沖	R1.11.22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
奥内沖	R1.11.22	0.0	0.8	1.7	0.8	0.0	3.3	0.0	0.0
久栗坂沖	R1.11.22	0.0	2.2	1.7	2.2	0.0	65.6	0.0	3.9
川内沖	R1.11.22	0.0	0.8	1.6	3.1	0.0	18.0	0.0	0.8

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

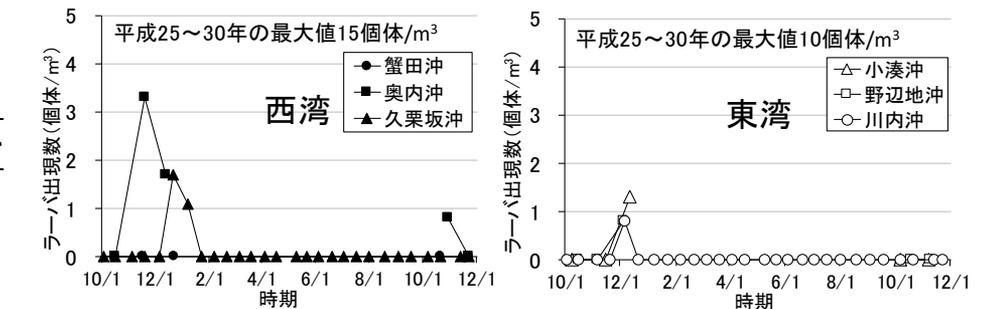


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移（平成30年10月～令和元年11月）

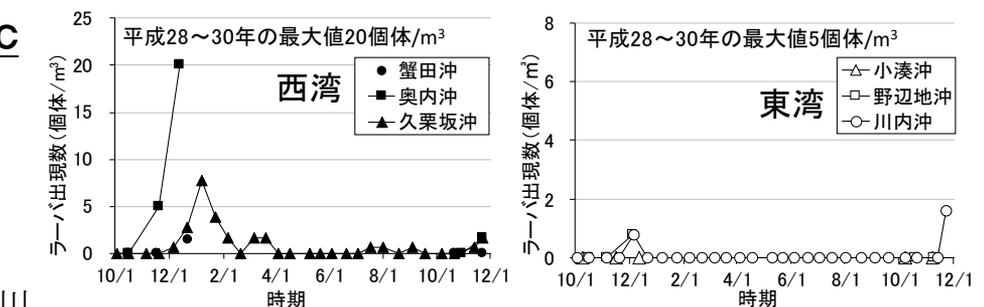


図3 マボヤラーバ出現数の推移（平成30年10月～令和元年11月）

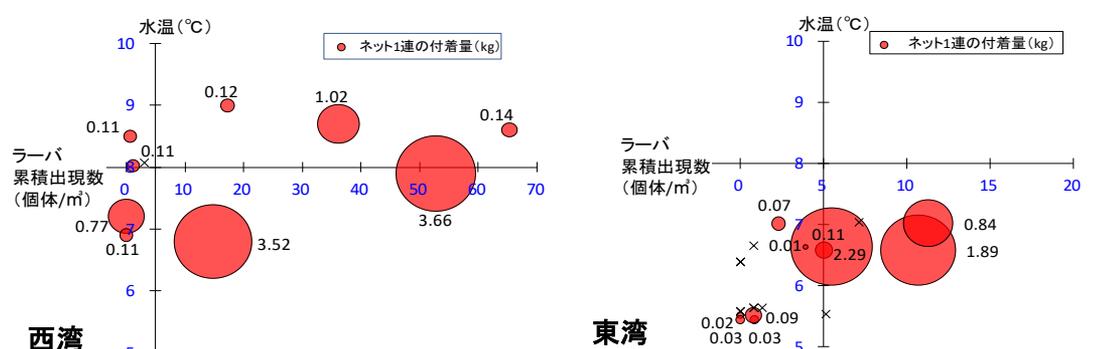


図4 平成16～30年のユウレイボヤのラーバ累積出現数、青森ブイまたは東湾ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係（○印の中心はプロット位置、面積は付着量、×は付着量が0kg）

